

村夜そんや  
(白居易はくきよい)

霜草そうそう 蒼々そうそうとして 虫むし 切々せつせつ

村南そんなん 村北そんほく 行人こうじん 絶たゆ

独ひとり 門前もんぜんに 出いでて 野田やでんを 望のぞめば

月明つきあきらかにして 蕎麦きょうばく花はなの 雪ゆきの 如ごとし

霜草蒼蒼蟲切切 村南村北行人絶  
濁出門前望野田 月明蕎麥花如雪

解説 母の陳氏が没した為、官を辞し清水の北にある下邳かけいに帰って喪に服していたころの作。

語釈 ※村夜||ここでは溜北の村の夜の光景をさす。

※霜草||霜にうたれた草。※蒼蒼||生気を失ったままの草が茂ること。※行人||道を行く人。※野田||野にある田。

※蕎麦||そば。夏から秋にかけて白い花が咲く。

通釈 生気を失った霜枯れた草は茂り、虫がしきりに鳴いている。村の南も村の北も、道行く人の姿はとだえた。一人 門前に出て野の中にある田を眺めると、さやかな月明りのもとに、そばの花が雪のように白く咲いている。